

令和8年1月26日

「創意と活力」のある学校づくり推進事業報告書

（学校名）春日井市立高座小学校

校長 垣内 秀幸

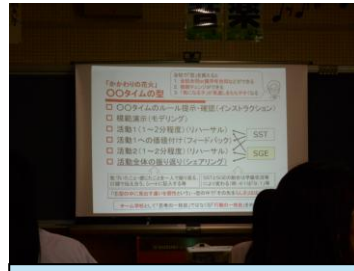
事業テーマ	明日が待ち遠しくみんなが通いたくなる学校の創造 ～関わり合いの中で子どもたちの多様な個性が輝く、協働的な学びを通して～	
取組の目的	いじめ・不登校予防に向けて取り組む、全校体制でのクラスワイドの SST（ソーシャルスキルトレーニング）・SGE（構成的グループエンカウンター）の実施と子どもたちが学校へ通いたくなるための授業改善。	
区分 (○印を付ける)	新規事業・ 継続事業 （総事業年数3年間、2年目）	
継続事業の場合、昨年度の課題を踏まえて対応した内容	「SST・SGE」の取組を始めて4年が経過した。当初と比べて学校が落ち着き、良好な人間関係がつくれている。しかし、個別最適で協働的な学びを促進させることが十分に図られていなかった。今年度はTタイムにより育まれた関わりの力を学習に般化することで、一人ひとりの個性や学習スタイルを尊重しつつ、他の子どもや教師との関わり合いを重視することで、より深い学びの実現を目指した。	
事業名	事業内容	実施時期
SST・SGE 研修会	○Tタイム実践参観・指導 ○演題「学級経営に生かすスリンプルプログラム」 (講師:かかわりプログラム Simple 代表 曾山和彦氏)	5/22 (木)
授業力向上研修会①	○研究授業および講演 ○講演「国語授業のユニバーサルデザイン」 (講師:名古屋葵大学 教授 堀部要子氏)	10/27(月)
授業力向上研修会②	○示範授業および実技講習会 ○演題「体育授業のユニバーサルデザイン」 (講師:桐蔭横浜大学 准教授 清水由氏)	12/17(水)



T タイム参観の様子



T タイム研修会の様子



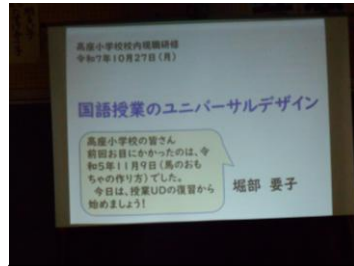
T タイム研修会の様子



研究授業（国語）の様子



授業研修会（国語）の様子



授業研修会（国語）の様子



示範授業（体育）の様子



示範授業（体育）の様子



授業研修会（体育）の様子

T タイム

T 研修
(教員向け T タイム研修)

先進校視察

○毎週 1 回 (木曜日)、全校体制で SST・SGE を実施

○実践研修 年間 7 回

○筑波大学附属小学校
○大阪教育大学池田地区附属学校

通年

通年

8/2 (土) ~ 3 (日)
11/15 (土)



T タイムの様子



T タイムの様子



T 研修の様子

取組の成果

本年度は、昨年度の課題を踏まえ「関わり合いの力の高まり」と「みんなが分かる授業の実践」を二本柱として、全校体制でSST・SGE（Tタイム）の継続と授業のユニバーサルデザイン化に取り組んだ。SST・SGE研修においては、教職員が活動の「型」にとどまらず、その背景にある「安心・安全な居場所づくり」という本質的意義を深く理解できたことが最大の成果である。多くの教員が「余分な指示を減らす」「時間を明示する」といった具体的な指導技術を獲得し、自信をもって実践に臨めるようになった。授業のユニバーサルデザイン化においては、国語科での「色分けの統一」や「ICTによる視覚支援」、体育科での「安心階層」や「場の構造化」といった具体的な手だてが、児童の学習参加を著しく促進した。特に、支援を要する子どもに対してスモールステップや選択可能な教材を用意したことで、全員が「分かる・できる」という達成感を味わえる授業へと質的転換が図られた。これらを通じ、全職員が共通の視点をもって指導に当たる「チームとしての足並み」がそろったことは、学校全体の教育力向上における大きな収穫であった。

課題

実践の継続と深化に伴い、質の向上に向けた新たな課題も見いだされた。Tタイムにおいては、活動を楽しむ段階から一歩進み、フリートークからシェアリングへといかに深めるかが課題であり、児童の気付きを拾い上げ価値付けるための教師のファシリテーション能力の向上が求められる。授業実践においては、タブレット端末の常時使用に伴う開閉のメリハリなど、学習規律の再徹底が必要である。加えて、体育科の特定種目における安全対策や、国語科での話し合い活動の活性化など、教科特有の細やかな運用改善も不可欠である。今後は、本年度確立した「型」や「共通理解」を土台としつつ、目の前の児童の実態に即して柔軟に応用・発展させ、質の高い学びを持続させていくことが重要となる。